



第6号

秋の気配を感じられる今日この頃、職員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？さて、今回の GOOD CARE は**がん看護特集**です。手術や化学療法などあらゆる角度から患者をサポートする**北9階、化学療法センター**を紹介します。

2021年11月発行



北9階

北9階病棟は消化器外科、乳腺外科、神経内科病棟です。入院される患者さんの約9割はがん患者さんで、手術や化学療法目的に入院されます。

コロナ禍の中で・・・

コロナ禍で面会ができず、家族が久しぶりに面会できた時には状態がかなり悪くなっていたり、亡くなった時の衝撃が大きく、受け止めがなかなかできなかったりということもありました。

家族看護を見直し、例えばスマートフォンからのビデオ通話や写真の送信を行うことを看護ケアに取り入れ、それに対し家族がよこんでいる声を聞くこともできました。最期の看取りについても、面会ができない状況なら自宅で最期を過ごすことを家族に提案することもあります。「これからの過ごし方」という冊子を渡して説明し、実際に自宅で看取することも増えています。



就労支援・・・抗がん剤を投与しながら社会で働いている患者さんもうらっしゃるので、初回の入院時に職場環境の情報を確認し、その後就労カンファレンスなどを実施しています。がんになったのをきっかけに今までしていた仕事を辞めるという選択をする患者さんもういらっしゃるため、入院時に就労状況を確認したり、がんセンターにある相談窓口を紹介したりというような関りも重要です。また、がん専門看護師や認定看護師、退院支援部門や臨床心理士など、他職種との連携が欠かせません。

病気が治っていく患者さんではないのでつらいと感じることもありますが、忙しい中でもカンファレンスを充実させ、看護と向き合い、お互いを認め合うことでモチベーションを維持しています。デスカンファレンスは全症例行ったり、プライマリ制を導入し一人の患者さんのがんの告知から治療・最期の時まで継続した看護を行ったりすることで、経験年数3～4年目くらいになると、やりがいを持って働く姿が見られます。

がん患者さんは、がんと診断を受けた時から「いつ来る死」をどこかに思いながら生きておられます。そのため、患者さんが治療を前向きにとらえできるだけ長く治療が続けられるような看護の提供が必要となります。しかし、治療の副作用や病状が進んだときは「死が迫っている」ように感じ、不安に陥る方も多いです。

治療を続ける中、副作用や症状の悪化で、つらいと語る方もいます。がん患者さんにとって治療がすべてではありません。緩和治療だけを選択することがすべてでもありません。患者一人一人の生活背景や望まれる生き方によって、「今、大切にすること」「今後、大切にすること」は大きく違います。そのひとが「どう生きていきたいか」、ご家族が「どう支えたいか」を考えケアを組み立てることが大切になります。



患者、家族との対話を中心に、それぞれの思いを丁寧に紡ぎ、明日へつなげる看護の提供を目指しています。 正司看護師、中村師長

化学療法センター

全診療科の化学療法が集約した場所

化学療法センターは、発足して18年目を迎え、年間7000件の治療を行っています。以前は、化学療法の導入時は、入院で行うことも多かったのですが、現在は外来での導入も増え、患者のQOLを維持しながら、治療を行うことも可能になりました。化学療法センターは、全診療科の治療が行われるため、薬剤の効果、副作用也多岐にわたります。そのため、薬剤師や医師と連携し、また、がん化学療法看護認定看護師が中心となり、患者の安全安楽を保つことを目標にケア介入を行っています。がん化学療法は、患者にとって辛いことも多い治療です。患者の不安や思いに寄り添い、患者の苦痛を少しでも緩和できるように取り組んでいます。

化学療法センターのスタッフは、北9階病棟でも勤務しています。患者は、入院時から関わっている看護師が、化学療法センターにいて、安心感があるようです。病棟と外来で連携することで、患者の情報交換もでき、継続したケアが行えることも魅力の一つと言えます。

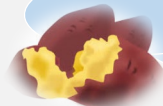
意思決定への関り

化学療法はとてつらい治療になることもあります。それゆえに、治療を拒否する患者さんもういらっしゃるのが現実です。そのような患者さんに対しては、医師や他職種で情報共有を行い、副作用対策や治療の内容の変更が可能であるか話し合い、できるだけ患者さんの意思を尊重できるような関わりをしています。また患者さんに対して、治療に関わる情報を正しく伝え、患者さん自身がしっかり考え、後悔しない選択ができるよう配慮しています。もしくは、一旦は治療拒否の気持ちを受け止め、日時を開けて再度選択できるような場を設けたり、家族の意向も同時に確認するなどしています。

次回は12月頃に発行予定です。コメディックスで皆様からのご意見をお聞かせください。

「いいね！」情報もお待ちしています。

自薦、他薦は問いません！ 発行元：看護部定着活動委員会



化学療法センターのみなさん